本願寺御影堂平成大修復に際しての消息

このたび、有縁の皆様のご尽力とご協賛を得、本願寺御影堂の修復工事を行うことになりました。

御影堂は文永九年、東山大谷にあった宗祖親鸞聖人の墳墓を吉水の地に移し、廟堂を建て、ご影像を安置したことに始まります。現在の御影堂は本願寺がこの地に落ち着いて四十年余り後、寛永十三年に建築され、今日まで、三百六十三年を経過しました。その間、寛政十二年より十年の歳月をかけた大修理のほか、数度の修理を経ていますが、今日、その傷みが甚だしく、寛政の修復にもまさる大修理を必要とするようになりました。

御影堂は親鸞聖人のみ教えを讃仰する私たちの心のふるさとであり、よりどころであります。聖人は、真に頼るものなく、自他のいのちを傷つけて生きている私たち一人ひとりによびかけてくださる南無阿弥陀仏のお念仏をおすすめくださいます。聖人のみあとを慕う人々は苦しみも悲しみも悦びも共にしてくださる御開山様親鸞様とこのご真影様を仰がれ、心をこめて御影堂を護り、受け伝えてくださいました。

このたびの修復には、国の重要文化財として国庫の補助を受けますが、今日、世界遺産として登録されている文化財を創建護持して下さった先人の業績を後世にとどめるとともに、宗祖のみ教えを次の世代へ伝えようとする私たちの決意を表す事業として、僧侶門信徒のご懇念、一人でも多くの方のご協賛を得て、完遂を目指したく存じます。十年の歳月を要すると予想されます工事中には様々の困難があるかと思われますが、立派に完成のうえ、宗祖七百五十回大遠忌をお迎えいたしたいと願っております。

平成十一年
一九九九年　一月十六日

龍谷門主　釋即如

教区新報 HONYOGO

1999.1.2 121号

発行所
浄土真宗本願寺派　兵庫教区教務所
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
（本願寺神戸別院内）
電話 神戸（078）341－5949㈹
〔編集〕教区基推委広報部

ご消息をうけて

21世紀へ

兵庫教区教務所長　高橋廣爾

厳冬一月十六日、御正忌が行われました。

御満座法要に引き続いて、ご門主のご親読を聴聞しながら、宗祖の浄土和讃を「本願寺御影堂平成大修復に際しての消息」の発布式いただいておりました。

七宝講堂道場樹
方便化身の浄土なり
十方来生きはもなし
講堂道場礼すべし

寛永十三年（一六三六）の再建以来三百六十余年、御影堂には「十方来生きはもなし」と、東西南北、四囲上下。どれほどたくさんの人々が、聖人のみあとを慕いお礼申したことでありましょうか。

ご和讃の講堂のところには「ナラウイエ」とご左訓になりました。

ご消息の「聖人は、真に頼るものなく、自他のいのちを傷つけて生きている私たち一人ひとりによびかけてくださる南無阿弥陀仏のお念仏をおすすめくださいます。」とのご教示を仰ぎ、南無阿弥陀仏とお念仏申し親鸞聖人に習うていく帰依所である御影堂の平成大修復が、今、始まりました。

二十一世紀に向けて宗門の礎を整え、次の世代へ伝へていくことへの決意を新たにしたことであります。

憶

児童相談に関るケースワーカーになり、いろいろな事例に接して来ました◆その中で、親から虐待されている子、学校へ行けない子、家出を繰り返す子、この子たちが今を生きることの難しさを痛感し、どうしてこの子たちの声が大人たちにわからないのだろう、この子たちにも心があるんだよ、という思いをしてきました◆そういう関わりの中で、その子たちの家庭には、心のよりどころとなる宗教がないことに気がつきました。言い換えれば親子ともに、心のよりどころがない浮き草のような生活。この子たちに、住職として出来ることは、学校へ行かせることでもなく、虐待に耐えさせることでもなく、自分を見つめ心を見つめ、素直に生きることを教えることしかできませんでした◆寺と門徒の関係も希薄になってきた現代において、住職の役割も複雑多岐、痴呆性老人の話相手から問題児の心のケアと休む暇なし。

（釋水正章）

教区だより　1・2月

15日（金）～16日（土）
別院常例法座　中尾教雄師　1時半
16日（土）
御正忌御満座・御消息発布式・記念のつどい　本山
17日（日）
阪神・淡路大震災物故者総追悼法要　1時半
仏婦常任委員会　3時
19日（火）
布教団役員会　1時
20日（水）
別院仏婦報恩講　高橋廣爾輪番　1時半
22日（金）
企画常任委員会　1時半
23日（土）
第4回まことの保育研修懇談会　1時半
26日（月）
寺婦委員総会・懇親会　10時半
31日（日）
仏壮常任理事会　1時半
2月1日（月）～2日（火）
組長・副組長・組相談員合同研修会　本山・聞法会館
3日（水）
都市開教推進部会　2時
4日（木）
近同推研修会　奈良
6日（土）
第一土曜仏教講座　清水正宣師　1時半
門推の日　10時
8日（月）～9日（火）
第三ブロック布教使研修会　奈良
8日（月）
青僧会研修会　4時
10日（水）
基推委定期研修会　1時半
13日（土）
ビハーラ研修会　1時半
15日（月）～16日（火）
別院常例法座　堀正昭師　1時半

「いのちは輝いている」
報恩講 子どものつどい

去る十二月二十日、好天に恵まれ、神戸別院に於て兵庫教区少年連盟・現地災害対策本部主催による震災支援「報恩講子どものつどい」が、約九十名の参加を得て、賑々しく開催された。「被災した子ども達に微笑みを！」をテーマに今回で三回目となる。

まず、喚鐘の音が響き渡る中、本堂で献灯・献華・献香が子ども全員の手で厳粛の内に進められ、子ども達も少々緊張気味の様子だった。続いて四十八の灯の光をうけながら、正信偈のお勤めとなり、高橋輪番のご法話では「ある実験で、ライ麦の種を数ヶ月育て、根の長さを測ると一万千二百kmにもなりました。目に見えないところで水分や栄養を吸い一本のライ麦が育っていく。同じように私達人間のいのちも目に見えないところで、たくさんの人達やお米、お魚など他のいのちに支えられている。そして仏さまが、みんないのち輝いているんだよ、とおっしゃることに気付いて、みんな仲良くしようね。」と話された。

正午からは、焼きソバ、タコ焼などの模擬店が立ち並び、どれから食べようかと迷いつつ何度も列に並びながら、楽しい昼食のひと時を過ごした。その後、野遊び協会や西福寺仏婦の皆さんのご協力によるクラフト作り、竹とんぼ、紙飛行機、組ひも作りなどに挑戦し「名人よりも上手にできた」との声も聞こえるほどできばえは上々。

日程の最後となるゲームでは、熱中するあまり、子ども達は我を忘れている様子も見受けられ、惜しまれつつ無事終了した。

阿弥陀如来の心が子ども達の心に響き、報恩講の想い出が深く心にきざみこまれることを願いたい。

子どもたちの笑顔

敬弔

豊原幸代さん（とよはら・ゆきよ＝神戸中組専稱寺衆徒）十一月二十日、二十七才で往生。葬儀は十二月二十日、専稱寺で。「慈照院釋尼明覚」。本願寺宗務所社会部勤務。

後藤よりゑさん（ごとう・よりえ＝姫路中組真宗寺前坊守）十一月二十八日、七十五才で往生。葬儀は十二月一日、真宗寺で。「法敬院釋妙信」。

奥原八重子さん（おくはら・やえこ＝岡山南組真光寺衆徒・前坊守）十一月二十九日、七十七才で往生。葬儀は十二月一日、真光寺で。「圓徳院釋尼貞順」。

鍋島俊成師（なべしま・しゅんじょう＝神戸市中組真覺寺前住職）十二月五日、九十八才で往生。葬儀は十二月十七日、真覺寺で。「謙淨院釋俊成」。昭和二十一年より同五十四年まで住職在職三十四年。昭和四十八年より同五十年まで副組長。本願寺派布教使。

江林政子さん（えばやし・まさこ＝赤穂北組得乗寺前坊守）十二月八日、八十六才で往生。葬儀は十二月十一日、得乗寺で。「聞名院釋尼正縁」。

森田教了師（もりた・きょうりょう＝神明組浄教寺前住職）十二月十四日、九十三才で往生。葬儀は十二月二十一日、浄教寺で。「旭光院釋教了」。昭和九年より平成九年まで住職在職六十四年。

肥塚絢子さん（ひづか・じゅんこ＝宍粟組光泉寺前坊守）十二月二十二日、八十七才で往生。葬儀は十二月二十五日、光泉寺で。「至願院釋絢寂」。

寺田芳枝さん（てらだ・よしえ＝神戸中組浄教寺前坊守）十二月二十三日、九十三才で往生。葬儀は十二月二十五日、本願寺神戸別院で。「香華院釋尼芳周」。

（訂正とお詫び）
先号の教区だよりの宮里俊哲師は宮里哲秀師の誤りでした。訂正してお詫び申し上げます。

（御礼のこと）
先号の掲載写真は、全て本願寺新報者からご提供いただきました。厚く御礼申し上げます。

兵庫教区教化センター
建設懇志進納総額
二千六百四十万九千七百七十五円
（98年12月31日現在）

今こそ教区イノベーション

三つの重点目標

み教えを次の世代へ

基幹運動推進委員会副会長
久堀弘義

本年一月十六日、ご正忌報恩講のご満座法要に続いて、ご門主さまから「本願寺御影堂平成大修復に際しての消息」を賜りました。

創建以来三百六十三年を経ました御影堂は、悲喜交々至る人生の真っ只中にありながら、親鸞さまの教えを唯一つの道として生きて来た私たちの先人にとっては、いつも心のふるさとでありました。

この御影堂の一本の柱にさえ、嬉しきにつけ、悲しきにつけ、称えずにはおれなかった先人のお念仏の声が染み付いているのです。しかもご門主さまは、このご消息の中で「世界遺産として登録されている文化財を創建護持して下さった」と、先人の業績を讃えられています。私たちの先人が熱い思いをこめて唯一つの心のふるさととして創建し、護持して下さったことを思いますとき、私たちもまた、御影堂平成大修復にあたり、精一杯の懇念と協賛のまことを捧げなければならないと痛感するのであります。

そして、やがてお迎えする親鸞さまの七百五十回大遠忌に向かって、「念仏の声を世界に子や孫へ」と、声を大にして呼びかけなければなりません。それは「宗祖のみ教えを次の世代へ伝えようとする私たちの決意」（ご消息）でもあります。兵庫教区の基幹運動は、この決意と実践を明らかにするために、平成十一年度の重点運動目標として

①伝えよう阿弥陀（仏）の願いを！

②できることから始めよう！

③信心の社会性をあきらかにしよう！

という三つのテーマを掲げて、より積極的に、より熱意を結集して推進しなければと、企画をすすめています。

僧侶門信徒並びに心ある方々、挙げてのご協力を切にお願い申し上げます。

（神戸湊組行願寺）

問題点をどう解決するか

基幹運動推進委員会委員
西池哲俊

イノベーション

蓮如上人五百回遠忌法要も、仏祖・上人のご遺徳と全国ご門徒の報恩のご懇念によって、十一月十三日をもって見事円成いたしました。

法要期間中、兵庫教区から各組各団体二万二千人の人々が参詣して、蓮如上人のご事績を知り、ご門主のご親教などをとおして、我が寺・わが信心が、いまイノベーション（変革）に迫られていることを肌で感じました。そして、ご門主さまが、イノベーションのための具体的提案としてお示しくださったいくつかのことを、どのように実践していくかが、わたしの今年の課題として課せられました。

お仏壇をよりどころにくらす『家族』を拡げよう。寺とご門徒、門徒と門徒がおみのりの《おたより》で結ばれ合う「御同朋の社会」をつくりあげよう。いわゆる《お説教》を中心にしながら、その周辺に、より日常的な布教を創造していかねばと教えてくださっているようです。

身近かな、すぐにできることから始めよう。二十一世紀はもうすぐそこ。

なんのための調査

この度、教区・宗門で集計した各寺院・各組の「差別法名過去帳調査」は100ゼントに近い回収率という真剣さのなかで取り組まれました。そしていま、それぞれの組で（門信徒とともに）調査結果の「よみ」の学習会がもたれています。この学習は、いま進行中ですが、いろいろな受け止め方があるようです。やれやれこれで完了というものやら、書き換え乃至抹消すればそれで免責。そうではなくて、差別表示があるなしに拘わらず、いつのときにも差別を温存助長しかねない特性をもつその過去帳を、いまも基本台帳として成り立っている寺と僧侶と寺檀関係に、いまこそイノベーションの目をむけねばというものまで、思いはまさに多岐です。調査結果をどのように読み取るか。二十一世紀へ向けての宗門・寺の命運のわかれる大事な分岐点かもしれません。

教化センターの機能は

阪神淡路大震災の難関をくぐりぬけて、ようやく完成をみた神戸別院・兵庫教区教化センターです。順風の時代に構想されたそれが、あまりにも理想すぎたのか、それとも大震災の打撃の後遺症なのか。外観はモダン寺にふさわしく新装成ったけれど、内実は一向にモダン化していないではないかと批判される向きがおおい。各種研修会・文化講座、それらの会場としてのモダンな機能が発揮されているのか。宿泊食堂設備なども考えられなければならないのでしょう。

また、とくに地方との間に、行政・教化両面についての常時有機的な交流が出来るよう、地方の教堂などを、教化センターの機能のなかに組み込んで活性化しなければならない課題もあるようです。

名実あい整った教化センターにするには。今年はそこから立ち上がって参りましょう。

（出石組勝林寺）

復興支援の要望提出

HO日誌

◆11月1日＝仏壮岡山ブロック研修会が光清寺（岡山南組）。講師は和田宏之師（揖龍東組源徳寺）◆5日＝蓮如上人五百回遠忌法要に姫路中組が団参◆近同推教務所長・基推委代表者会議が京都で◆別院報恩講会役者打ち合わせ会を別院で会役者に光森龍樹師（神明組安養寺）、和田宏之師（揖龍東組源徳寺）を依頼◆6日＝蓮如上人五百回遠忌法要に佐用組が団参◆東北教区福島北組青柳寺・福岡教区三笠組より別院に団体参拝◆7日＝蓮如上人五百回遠忌法要に淡路組・神姫組・岡山北組が団参◆第一土曜仏教講座。講師は古結芳子師（兵庫県スポーツ優秀選手賞・和歌山県田辺市スポーツ賞受賞・「銀のしずく」著者）。ビハーラ兵庫が古結師の講演を公開講座とする◆門推の日。毎月第一土曜日の十時からを教化センター内で門推会員交流の場と設定。16名が集まり午前中は話し合い、午後は第一土曜仏教講座を聴聞した◆第二回スカウトの集いを別院で◆8日＝蓮如上人五百回遠忌法要に阪神南組・加古川組が団参◆東北教区山形組常福寺・滋賀教区滋賀組専念寺・福岡教区嘉麻組より別院に団体参拝◆9日＝福岡教区嘉麻組第二班より別院に団体参拝◆10日＝福岡教区福岡組より別院に団体参拝◆仏婦第11回若婦人の集いを別院で。講師は大橋紀恵師（大阪教区川北組安明寺）◆11日＝蓮如上人五百回遠忌法要に阪神南組・神明組・加古川組が団参◆近畿教誨師研修会が大阪市・大谷派難波別院で◆12日＝蓮如上人五百回遠忌法要に姫路西組が団参◆熊本教区菊池組より別院に団体参拝◆13日＝蓮如上人五百回遠忌法要に岡山南組が団参◆同御消息発布式・終了式が本山で◆少年懇談会を別院で◆福岡教区遠賀組より別院に団体参拝◆13日＝本願寺江並教堂・岡山南組真光寺・光明寺より別院に団体参拝◆14日～15日＝別院常例法座。講師は堀孝文師（揖龍東組西法寺）◆矯正幹事会を別院で◆兵庫県仏教教誨師研修会が別院で◆17日＝長島愛生園・邑久光明園報恩講。高橋所長らが出勤◆19日＝基推委企画常任委員会を別院で◆20日＝青僧会役員会・職員会を別院で◆21日＝須磨浦女子高校75周年記念式典に高橋所長が出席◆21日～22日＝仏壮幹部研修会を別院で。講師は藤榮行信師（淡路組宣徳寺）◆22日＝滋賀教区野洲組浄念寺仏壮より別院に団体参拝◆23日＝赤穂南組門推結成十周年記念大会が法光寺で。高橋教務所長らが出席。山本勝美会長に教務所長感謝状を授与◆24日～25日＝仏婦幹部研修旅行を岐阜別院と三河別院を訪ねて72名が参加◆26日＝神戸東組照善寺（杉本正義住職）本堂上棟式に高橋所長らが出席◆27日～29日＝別院報恩講法要。講師は田中郁朗師（福岡教区西嘉穂組明信寺）◆29日＝大阪教区交野組妙教寺仏婦より別院に団体参拝◆30日＝組長会を別院で。終了後、懇親会◆広報部会を別院で◆12月1日＝安芸教区佐伯東組延命寺仏婦より別院に団体参拝◆1日～2日＝近畿仏婦協議会を兵庫担当により別院で。近畿六教区委員長、歴代委員長、担当者が参加。協議会終了後、神戸市内の舞子ビラで食事と宿泊◆2日～3日＝豊岡教堂報恩講。講師は棚原正智師（神姫組光輪寺）◆3日～4日＝基幹運動推進教区相談員中央研修会が本山で。近畿相談員が出席◆5日＝第一土曜仏教講座。講師は藤実無極師（本願寺参拝部長）。講題は「命みつめて」◆門推の日を別院で。18名が出席◆6日＝江並教堂報恩講。講師は多田満之師（赤穂北組西光寺）◆8日＝阪神・淡路大震災現地災害対策委員会・教区災害対策委員会を別院で。北島経昭総務、滝口龍誠社会部長、西崎浄尚庶務部長が列席され、阪神・淡路大震災に関わる関係法規延長並びに復興支援についての要望等を寺院復興現況調査報告に基づき協議。明年1月17日に阪神・淡路大震災物故者追悼法要を別院で勤修することを決めた◆9日＝布教使育成研修会を別院で。講師は宇野行信師（大阪教区東住吉組常徳寺）。26名が参加し現代布教の問題点を話し合った◆10日＝ビハーラ兵庫公開講座を別院で。講師は黒田信稔師（黒田内科クリニック院長・姫路西組満勝寺）。「医療の現場とビハーラの接点」と題して講演◆11日＝仏婦委員総会・保育理事会・青僧会役員会を別院で◆13日＝和歌山教区仏壮より別院に団体参拝◆14日＝仏婦・寺婦三役協議会を別院で◆15日＝門推会報編集委員会を別院で◆15日～16日＝別院常例法座。講師は宮里哲秀師（神明組真宗寺）◆16日＝阪神・淡路大震災に関わる関係法規延長並びに復興支援についての要望を本山に提出◆教務所長会が本山で◆組長・副組長一泊研修会の打ち合わせ会を本山で◆17日＝総代会評議員総会を別院で。職員会・忘年会◆18日＝広報部会を別院で◆20日＝震災支援報恩講子どものつどいを別院で◆広島別院至心会より別院に団体参拝◆21日＝基推委企画常任委員会を別院で◆22日＝矯正研修会・年忘れヤング広場を別院で◆26日＝別院・教務所事務終了式◆31日＝別院除夜会。十数名の参拝者とともに般舟讃をお勤めし、高橋輪番がご法話。

「納骨所」残りわずか

都市形墓地として好評をいただいています別院の納骨所は、特別区画が三基と特別壇（小型区画）が百四十基を残すのみとなりました。お早めのお申し込みをご案内いたします。

特に小型区画は、上部の仏壇が特別区画と同じものが設置され「ゆったりとした雰囲気のなかでお参りができる」と参拝者の声。

別院では、朝は七時のお晨朝から夕方五時までいつでも参拝していただけるよう配慮しており、最近では通勤途中にお参りされる方も増え、お香の香りが絶えることなく漂っています。

また、読経を希望される方も多く、職員は交替で対応に当っています。

尚、納骨所の使用懇志額は、特別区画一基三百六十万円以上（年次維持冥加金八千円）、特別壇（小型区画）一基百万円以上（下段のみ九十万円以上、年次維持冥加金五千円）です。

お問い合わせは担当北村まで。